

[研究]

## ILL をきっかけとした Patron-Driven Acquisition

——パデュー大学図書館の事例から——

村西 明日香

利用者のリクエストをきっかけに資料を購入する選書方法“Patron Driven Acquisition (PDA)”について、パデュー大学の事例報告文献に基づいて紹介する。それらの文献から PDA 購入資料について、リクエスト者はリベラルアーツ分野の所属者や大学院生が多く自分の専門以外の分野にも関心が高いこと、蔵書として適切であること、よく借りられることなどが明らかになった。それを基に、蔵書構築における ILL 部署と受入部署の協力体制について検討する意義を示した。

### 1. はじめに

図書館の主要な構成要素である「蔵書」を構築することは、図書館の重要な活動のひとつである。図書館員は、サービス対象となる利用者のニーズを把握するよう努め、それを踏まえて資料を選択し、購入して利用に供する。こうした蔵書構築の方法は“Just in Case”とも表現される。しかし、必要とされるすべての資料をあらかじめ揃えておくのは不可能であり、利用者が求める資料が所蔵されていないということも当然あり得る。それを補うため、資料を他の図書館から一時的に借りる、あるいは必要な部分のみコピーして送ってもらう、ILL サービスを用意している。これは資料への“Just in Time”のアクセスを確保するサービスとも言える。

このように、図書館では長く、Just in Case の方法で蔵書構築を行い、そこから漏れた資料については Just in Time の方法でアクセスを提供するという形をとってきた。しかし、大学図書館の総予算の削減に加え、学術雑誌の価格上昇による図書資料費の圧迫、あるいは電子資料購入費の増加による印刷資料購入費の圧迫、さらには印刷資料の管理コストの増加<sup>1)2)</sup>とい

った経済的な要因から、蔵書構築手法の再検討が行われるようになった。そうした中で、“Patron Driven Acquisition (PDA)”と呼ばれる新しい選書方法が注目を集めている。PDA とは、利用者のリクエストをきっかけに資料を購入し、蔵書とする方法である。導入当初においては印刷資料の選書方法として取り入れる図書館がほとんどであったが、近年では電子書籍の選書方法としても注目を集めており、小山<sup>3)</sup>がその仕組みや、実際に導入した大学の事例とその効果などを報告している。

本稿では、2000 年に PDA を導入し、その取り組みの先駆けとなったパデュー大学 (Purdue University) 図書館の事例について、文献<sup>4-9)</sup>に基づいて紹介するとともに、利用者のリクエストを中心とした選書方法のメリットと課題について述べる。

### 2. パデュー大学の PDA プログラム

#### 2.1 大学及び図書館の概要

パデュー大学は、アメリカのインディアナ州ウェストラファイエットに位置する。カーネギー教育振興財団のカーネギー分類では、Research Universities (very high research

activity) に分類される<sup>10)</sup>。2012-2013 年の学生数は 39,256 人で、うち 77% が学部生である<sup>11)</sup>。

図書館は 14 館と書庫から構成される<sup>12)</sup>。2011-2012 年の蔵書冊数は 3,561,350 冊、職員数は 202 人 (教員・専門職 74 人、支援スタッフ 80 人、学生アシスタント 48 人) である<sup>13)</sup>。

## 2.2 PDA プログラム開始のきっかけ

パデュー大学の ILL スタッフは、現物貸借リクエストのうちの多くが、最近出版されたばかりの本に対するものであることに気がついた。しかし、新しい本に対する現物貸借リクエストは、発注中であるとか、貸出中であるとの理由で依頼先に断られ、リクエストに応えられないという結果に終わることが多い。また、他館から資料を借りる際には当然費用もかかるが、それはリクエストした利用者 1 人の 1 回の利用のみに払われる費用であり、その図書館の蔵書には何ももたらさない<sup>14)15)</sup>。ならばいっそのこと、ILL を通して借りるのではなく書店からその資料を購入し、自館の蔵書に加えた方がよいのではないかと、ILL スタッフは考えるようになった。

ただしこの試みを実践するためには、他館から資料を取り寄せる際にかかるのと同じくらいの時間で、書店から資料が届かなければ意味が薄い。そこで ILL スタッフはまず、パデュー大学の ILL 現物貸借リクエスト履歴を参照し、貸借ではなく購入を選択する資料の基準を作成した。そして、それを満たす資料が ILL 現物貸借リクエストと同程度の時間で購入可能かを検証し、館内の委員会では問題点の検討などを行った上で、2000 年 1 月、PDA プログラムを開始することとなった。

## 2.3 PDA プログラムの概要

ILL 現物貸借リクエストを受け付けてから、PDA によって資料を購入し利用者に提供する

までの業務の流れは次の通りである。

リクエストのあった資料について、まず自館の所蔵を確認する。自館に所蔵がなければ、Amazon.com でその資料を探す。見つければ、以下の基準に合致するかどうかを確認する。

- ・ 英語で書かれたものであるか
- ・ ノンフィクションであるか
- ・ 学術書であるか (小説や娯楽本、自己啓発書、教科書などでないか)
- ・ 5 年以内に出版されたものであるか
- ・ 価格は 100 ドル以内であるか
- ・ 1 週間以内に届くものであるか

なお、この基準はプログラムを行う中でわずかに見直しが行われており、2009 年までに、価格の上限は 150 ドルに引き上げられ、出版年の範囲は過去 3 年以内となり、DVD も購入対象となった。また、英語以外の資料については、ILL を通して入手することが難しければ、Amazon.de あるいは Amazon.fr から購入するという選択も行うようになった。

リクエストされた資料が以上の基準を満たしていれば、Amazon.com の画面コピーを 2 部印刷し、最終的にどの図書館に所蔵するかを決めて記した上で、1 部は ILL スタッフの手元に置き、もう 1 部は正午までに受入担当の部署に持っていく。なお、最終的にどの図書館に所蔵するかはその資料をリクエストした利用者の所属によるところが大きいですが、資料の主題分野を考慮して利用者の所属と異なる図書館に所蔵されることもある。

受入スタッフは毎日午後 Amazon.com で発注を行い、OPAC にその資料を登録して状態を「発注中」とする。ILL スタッフはそのリクエストについて ILL 管理システムにレコードを作成し、PDA プログラムの資料であることが後から分かるように、「AZZ」というコードを特定のフィールドに入力する。

資料は Amazon.com から ILL のオフィスに直接届けられる。蔵書印を押し、PDA プログラ

ムに対する利用者への簡単なアンケートが印刷されたスリップをはさんで、ILLの現物貸借と同じように貸出される。

資料が返却されたら、アンケートのスリップは外し、PDAプログラムによって購入された資料であることと、所蔵する図書館はどこかを示したスリップを新たにはさんで、受入・目録担当の部署へ送る。新着図書として受入・目録作業が行われた後に、最初に決められた図書館へ送られ、配架される。

## 2.4 PDAプログラムの結果の分析

PDAプログラムの結果は、パデュー大学の図書館員によって様々な観点から分析が行われている。以降、文献に示されている分析の結果を紹介する。

### 2.4.1 リクエスト者

開始から2年間(2000年～2001年)でPDAプログラムによって購入された資料について、リクエスト者の所属する学問分野ごとに見ると、英語学・英文学／歴史学／外国語学・外国文学／政治学／経営学／哲学のリベラルアーツ6分野が多く、合計で全体の45%を占めた。開始から10年間(2000年～2009年)についても6分野合計で全体の49%となり、最初の2年間と同様の傾向であった(表1)。

なお、パデュー大学の各部局の学生比率は、リベラルアーツ分野に所属する学生が23%、科学技術分野に所属する学生が73%、その他部局に所属していない学部生や学際分野の学生が4%<sup>16)</sup>であり、リベラルアーツ分野の所属者によるリクエストの多さはいくぶん驚くべき結果であると述べられている。

このような結果となった理由として、科学技術分野の学生よりもリベラルアーツ分野の学生の方が単行資料を多く利用する傾向にあることや、科学技術分野の利用者によるILL現物貸借リクエストは多くが専門的な資料(会議録やテ

表1 リクエスト者の所属分野別購入タイトル数

分野	2000-2002	2000-2009
英語学・英文学	231	1,748
歴史学	138	1,182
外国語学・外国文学	88	606
政治学	70	474
経営学	67	239
哲学	58	399
小計	652	4,648
その他	795	4,924
合計	1,447	9,572

出典: 文献5), p. 4. 及び文献7), TABLE1 (p.11) を基に筆者が作成。

クニカルレポートなど)で、PDAを選択する基準に合わないことなどが挙げられている。

また、リクエスト者の身分に注目してみると、開始から2年間においては、大学院生が59%と最も多く、続いて教職員が32%、学部生が9%であった。開始から10年間においてはリベラルアーツ6分野についてのみ示されており、最も多くリクエストしているのは大学院生、続いて教職員、学部生であった(図1)。ただし外国語学・外国文学のみ、教職員が最も多かった。

これらの結果は、ILL現物貸借の利用統計と同様である。リベラルアーツ分野の大学院生はILLサービスの主要ユーザーであり、結果としてPDAプログラムの主要ユーザーにもなった。

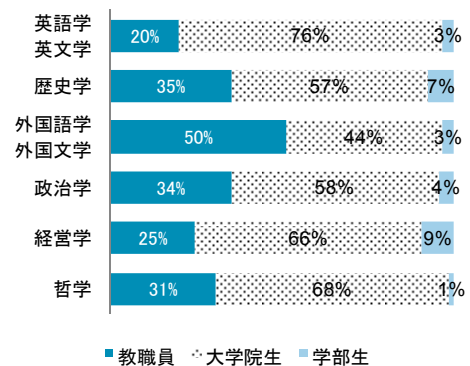


図1 購入タイトルにおけるリクエスト者の身分(2000-2009年)

出典: 文献7), TABLE2 (p.11) を基に筆者が作成。

## 2.4.2 主題分野

開始から10年間におけるPDA購入資料を主題分野で見ると、82%がリベラルアーツ分野、13%が科学技術分野であった。この結果と前節の結果から、リクエスト者の所属分野とリクエストする資料の主題分野が必ずしも一致するわけではないことがうかがえる。そこで、PDAによる購入資料の主題分野と、リクエストした利用者の所属との関係に注目する。

まず、前節で上位に現れたリベラルアーツの6分野について、各分野の対象範囲となる主題の分類記号を各分野の主題担当者が定義する。たとえば「英語学・英文学」については、対象となる分類記号はDDC (Dewey Decimal Classification) で410から419(言語学)、800から829(英語で書かれた文学)、LCC (Library of Congress Classification) でPE(英語学)、PN(文学一般)、PZ(小説、青年文学)と定義される。そして、その分類記号に該当するPDA購入資料がどの所属の利用者によってリクエストされたのかを調査した。英語学・英文学の分類記号が振られた資料は、英語学・英文学に所属する利用者がリクエストしたのか、それとも他の分野に所属する利用者がリクエストしたのか、といった具合である。

プログラムの最初の2年間の結果については、

次のように簡単に報告された。

- 哲学の資料は、哲学に所属する利用者よりも他の分野に所属する利用者によるリクエストが多い。
- 歴史学の資料の77%は、歴史学に所属する利用者によるリクエストである。
- 経営学の資料は、他の分野に所属する利用者によるリクエストが多い。

また、2000～2009年の10年間の結果については、数値まで詳細に報告された(表2、図2)。

注目すべきは経営学で、経営学の分野に所属する利用者からのリクエストはわずか18%、残りは他の分野(コミュニケーション、農業経済、消費科学・金融学、図書館学<sup>17)</sup>、英語学・英文学、産業工学、政治学、歴史学など)の利用者からのリクエストであった。高い関心がみられたトピックは、広告、ブランドネーム、ビジネス知識と理論、プレゼンと会議、消費と消費者、電子取引とゲーム、経済のトピック、雇用とリーダーシップ、組織改革、財政、産業、マーケティングであった。

同様の傾向は社会学や宗教学でも見られた。社会学、宗教学の資料は、12%のみがその分野に所属する利用者によってリクエストされ、残りはすべて他の分野の利用者からのリクエストによるものであった。

表2 各主題分野の購入タイトル数とリクエスト者の所属(2000-2009年)

分野	分類記号(DDC 及び LCC)	左記分類記号の購入タイトル数		
		総数	部局内者	部局外者
英語学・英文学	410's(※)+800-829+PE/PN/PZ	1,111	690	421
歴史学	900's=D*/E*/F*	993	430	563
外国語学・外国文学	400's+830-899+P's	386	114	272
政治学	320's+J's	396	145	251
経営学	330+332+338+650's+HB:HJ	770	135	635
哲学	100:149+160:199+B:BD+BH:BJ	449	224	225
合計		4,105	1,738	2,367

※原文では「410s」となっている

出典: 文献7), TABLE5 (p.15) を基に筆者が作成。

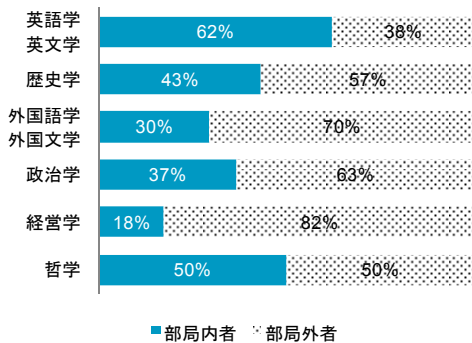


図2 各主題分野の購入タイトル数とリクエスト者の所属(2000-2009年)

出典:表2を基に筆者が作成。

ここで、科学技術分野についても目を向けてみたい。PDAプログラムによる購入資料のうち、科学技術分野の図書館で所蔵されることになったもの、及び科学技術分野の分類記号(DDCで500~699、ただし650~659の経営管理は除く)の資料は合わせて1,557タイトルあった。このうち、科学技術分野の図書館で所蔵されることになったが科学技術分野の主題でない資料は356タイトルで、全体の23%であった。これらは科学技術分野に所属する利用者の他分野への関心の表れと考えられる。

このように、利用者は自分の専門以外の分野にも関心を寄せており、各図書館の選書を担当

する図書館員は、図書館の主題分野以外にも広く気を配って選書する必要があることが明らかになった。また同時に、PDAプログラムがそのような多様なニーズを拾うひとつの手段であり、各館の蔵書構築に有用であることもうかがえる。

### 2.4.3 蔵書としての適切性

PDAプログラムにおいては、購入するかどうかの判断基準はあるものの、その判断はILL担当のスタッフが行っており、普段選書を担当している図書館員によって確認されているわけではない。そこで、PDAプログラムによる購入資料が蔵書として加えるのに適切なものであったか、検討が行われている。

まず、購入資料の出版社に注目する。リベラルアーツ6分野の10年間の購入資料について、その出版社のカテゴリー別に見ると、85%が大学出版社または学術出版社、12%が商業・一般出版社であった(表3)。なお、リベラルアーツ6分野の購入タイトルの中で多くみられた出版社は、Cambridge University Press(255タイトル)、Routledge(242タイトル)、Oxford University Press(228タイトル)であった。

表3 出版社カテゴリー別購入タイトル数(2000-2009年)

分野	総数	大学出版社		学術出版社		一般・商業出版社	
		タイトル数	割合	タイトル数	割合	タイトル数	割合
英語学・英文学	1,748	815	47%	711	41%	222	13%
歴史学	1,182	674	57%	290	25%	218	18%
外国語学・外国文学	606	271	45%	223	37%	111	18%
政治学	474	230	49%	189	40%	55	12%
経営学	239	60	25%	140	59%	34	14%
哲学	399	209	52%	155	39%	35	9%
合計	4,648	2,253	48%	1,647	37%	541	12%

出典: 文献7), TABLE7(p.18)を基に筆者が作成。なお、割合は小数点第一位を四捨五入しているため合計は100%にならない。

科学技術分野においても同様に、購入資料のほとんどが大学・学術出版社の資料であった。10 冊以上リクエストがあった出版社をリストアップしたところすべてが大学・学術出版社であり、内訳は学術出版社が 16 社・669 タイトル、大学出版社のものが 6 社・193 タイトルとなった。なお、上位 3 社は Springer (148 タイトル)、Wiley (112 タイトル)、Cambridge University Press (75 タイトル) であった。

また、PDA による購入資料が蔵書として適切かどうか、各分野の書誌学者による判断が行われている。リベラルアーツ 6 分野の分類記号に該当する購入資料は、100%に近い割合で蔵書

に加えるのが適切であると判断された (表 4)。経営学の分野で適切でないと判断されたのは「一攫千金」についての資料や、経営スタイルに関する資料などであった。

科学技術分野の購入資料は、96%が蔵書に加えるのが適切であると判断された。適切でないと判断された資料には、若者向けの本や、人間関係・健康・病気・ダイエットなどの自助本など、学術書でないものが含まれていた。

このように、ごくわずかに蔵書として不適切なものも含まれてはいたが、PDA による購入資料は蔵書に加えるのに十分ふさわしい資料だとパデュー大学では判断された。

表 4 各分類記号の購入資料における蔵書としての適切性(2000-2009 年)

分野	分類記号	左記分類記号の購入タイトル			
		総数	適切でない	適切である	
英語学・英文学	410's(※)+800-829+PE/PN/PZ	1,111	1	1,110	99.9%
歴史学	900's=D*/E*/F*	993	3	990	99.7%
外国語学・外国文学	400's+830-899+P's	386	3	383	99.2%
政治学	320's+J's	396	0	396	100.0%
経営学	330+332+338+650's+HB:HJ	770	39	731	94.9%
哲学	100:149+160:199+B:BD+BH:BJ	449	0	449	100.0%
合計		4,105	46	4,059	98.9%

※原文では「410s」となっている。

出典：文献 7), TABLE6 (p.17) を基に筆者が作成。

#### 2.4.4 貸出状況

最後に、PDA プログラムによる購入資料の貸出状況に注目する。

対象は PDA 購入資料のうち、2009 年 9 月 14 日までに受入・目録作業が完了し、かつ、ILL システムと貸出システムにおいて資料情報が一致し貸出回数を取得できた 9,327 タイトルと、同期間に通常の方法 (図書館員による選書、見計らい、継続図書。寄贈図書や参考図書は除く。以下、「通常選書」と呼ぶ) によって購入された 141,112 タイトルである。貸出回数は、その資料の受入・目録作業が完了した日から 2009 年 9 月 14 日までを取得する。

#### (1) 貸出回数

PDA による購入資料と、通常選書による購入資料の平均貸出回数を比較する (表 5)。

平均総貸出回数は PDA プログラムによる図書と通常選書との間に差がほとんど見られなかったが、平均通常貸出回数は差が大きかった。平均予約貸出回数は通常選書の方が多かったが、授業に必要な資料に特化しているコースリザーブの資料は、図書館員が授業の情報を得て選書したり、教員がそこに加えるよう依頼することによって計画的に整備されているため、このような結果になったと考えられる。

表 5 貸出回数の比較

	PDA	通常選書
総タイトル数	9,327	141,112
総貸出回数	30,996	427,608
<b>平均総貸出回数</b>	<b>3.323</b>	<b>3.030</b>
通常貸出回数	29,062	340,121
<b>平均通常貸出回数</b>	<b>3.116</b>	<b>2.410</b>
予約貸出(※)回数	1,934	87,487
<b>平均予約貸出回数</b>	<b>0.207</b>	<b>0.620</b>

※予約貸出とは、授業のため別に用意された「コースリザーブ」と呼ばれる資料を 2 時間のみの利用するという貸出である。

出典：文献 9), TABLE1 (p.38) を基に筆者が作成。

なお、表 5 の PDA プログラムによる購入資料の貸出回数は受入・目録作業後の貸出回数であり、ILL としてリクエストした利用者による最初の 1 回の貸出は含まれていない。この回を加えると、通常貸出の総貸出回数は 38,389 回、平均貸出回数は 4.116 回に増加する。

(2)一度も貸出されない資料の割合

通常選書による購入資料のうち、一度も貸出されなかった資料は 46,996 タイトルで、全 141,112 タイトルの 33%、一方、同期間の PDA プログラムによる購入資料のうち 2009 年 9 月 14 日までに一度も貸出されなかった資料は 1,722 タイトルで、全 9,327 タイトルの 18% と非常に少なかった。

(3)リクエスト者の身分別貸出回数

PDA プログラムによる購入資料をリクエスト者の身分別に分け、どのような利用者に貸出されているかを比較する(表 6)。貸出回数にはリクエスト者による最初の貸出と、2 時間のみの予約貸出は含まない。

学部生や院生のリクエストによる購入資料に比べ、教員のリクエストによる購入資料は平均貸出回数が低い。また、学部生のリクエストによる購入資料を最も借りているのは学部生であるが、教員、大学院生、その他の利用者のリクエストによる購入資料を最も借りているのはすべて大学院生である。大学院生は PDA プログラムによる購入資料のヘビーユーザーであることがうかがえる。貸出回数にはリクエスト者による最初の 1 回が含まれていないとはいえ、受入・目録作業を終えて貸出可能になってからそのリクエスト者がもう一度借りるケースが多いため、リクエスト者と同じ身分の利用者による貸出回数が多くなるということも考えられる。しかし、目録作業後の最初の 1 回の貸出を除いても結果は同様であった。

(4)主題分野別貸出回数

最後に、PDA プログラムによる購入資料の貸出回数を主題分野別に比較する(表 7)。なお、集計はリクエスト者の身分別に行う。また、主題分野が不明なものは除く。

教職員のリクエストによる購入資料の貸出回

表 6 リクエスト者の身分別平均貸出回数

ILL リクエスト者	総数	平均貸出回数				合計
		教職員	大学院生	学部生	その他	
教員	2,366	<b>0.51</b>	1.00	0.69	0.40	2.60
大学院生	5,589	0.28	<b>1.83</b>	0.69	0.46	3.27
学部生	704	0.19	1.02	<b>1.84</b>	0.57	3.62
その他	668	0.28	1.12	0.91	<b>0.85</b>	3.16
合計	9,327	0.33	1.51	0.79	0.48	3.12

出典：文献 9), TABLE5 (p.40) を基に筆者が作成。

表 7 リクエスト資料の主題分野別平均貸出回数

DDC	教職員		大学院生		学部生	
	冊数	平均貸出回数	冊数	平均貸出回数	冊数	平均貸出回数
0 類(総記)	93	3.09	232	6.06	52	7.35
1 類(哲学・心理学)	137	3.80	425	3.95	27	5.74
2 類(宗教)	102	2.86	307	3.12	44	3.95
3 類(社会科学)	785	3.72	1,968	4.16	214	4.19
4 類(言語)	63	3.76	171	5.12	8	2.75
<b>5 類(科学)</b>	<b>121</b>	<b>4.16</b>	<b>242</b>	<b>6.08</b>	<b>19</b>	<b>8.00</b>
<b>6 類(技術)</b>	<b>215</b>	<b>4.06</b>	<b>691</b>	<b>5.14</b>	<b>123</b>	<b>5.24</b>
7 類(芸術・娯楽)	256	3.53	347	4.12	76	4.49
8 類(文学)	248	3.75	708	3.80	41	3.73
9 類(歴史・地理)	344	3.02	485	3.24	99	3.35
合計	2,364		5,576		703	

出典:文献 9), TABLE6 (p.41) を基に筆者が作成。

数は分野によるばらつきはあまり見られないが、大学院生及び学部生のリクエストによる購入資料はばらつきが見られた。また、8 類、9 類の資料はどの身分の利用者も同程度の貸出回数となった。

注目すべきは、どの身分の利用者においても科学技術分野の資料が高い貸出回数を示しているということである。2.4.2 で述べた通り PDA プログラムによる購入資料は 8 割以上がリベラルアーツ分野の資料であったことを考えると、興味深い結果である。

### 3. まとめ

以上の結果から、パデュー大学の図書館員はいくつかの PDA プログラムのメリットを認識した。

まず、通常の選書において見落とされてしまうことの多い、複数の分野にまたがるような境界領域の資料を購入できたことが挙げられる。ある分野の資料についてリクエストしたのがその分野に所属する利用者ではないという結果は、利用者に関心を持つ領域が広いこと、また境界領域の分野について関心を持つ利用者も多く存

在することを示している。そうした資料については、個々の専門分野を持つ図書館員よりも、利用者（研究者）の方が、どの資料が適切なのかということに早く気がつくかもしれない。

また、大学院生のリクエストを選書に反映できたことも、PDA プログラムのメリットである。PDA の主な利用者となったのは大学院生であり、その大学院生のリクエストによる PDA 購入資料は多くの利用があった。また、ほとんどの資料が蔵書に加えるのにふさわしいものであると判断された。このことから、大学院生は十分選書者としての役割を果たしていると考えられる。彼らの声を積極的に選書に取り入れていくことには検討の価値があろう。

しかしパデュー大学の図書館員たちは、PDA プログラムのメリットを実感しつつも、選書を PDA のみによって行うこと、すなわち蔵書構築を完全に利用者に任せてしまうことは望ましくないと述べている。各主題の専門家である図書館員は、現在行われている研究と教育的必要性の両方を考慮した蔵書構築を保障する存在であるとし、教員、学生、図書館員という立場の異なる構成員を巻き込み蔵書を築くことが必要



であるとしている。

#### 4. おわりに

以上、パデュー大学の PDA プログラムの事例について文献から紹介した。その後多くの大学において、パデュー大学の取り組みを参考に PDA プログラムが実施されており、事例報告の文献も多くみられる<sup>18)</sup>。それらの取り組みについても調査し、パデュー大学の結果と比較すれば、より PDA プログラムのメリットや課題が浮き上がってくるだろうと予想される。

日本の大学図書館においても、限りある資料費をいかに有効に使うかを考えることは重要である。利用者からの購入リクエストを受け付けたり、選書ツアーなどを開催し、学生に直接資料を選んでもらったりといった、利用者の声を選書に直接反映させる取り組みは、すでに多くの図書館で行われている<sup>19)~22)</sup>。ILL リクエストも、利用者の資料に対する需要をダイレクトに表しているものであり、これを蔵書構築に活用することは有意義であろう。ただし、直接サービスである ILL の部署と間接サービスである受入の部署はたいへい離れた関係にあり、情報共有することができていないように思われる。そこでまずは、二つの部署の協力体制を構築するところから始める必要がある。たとえば、アメリカのペンシルベニア州にあるバックネル大学 (Bucknell University) は、PDA プログラムを実施した結果 ILL と受入の部署を統合し、情報共有を行いながら効率的に蔵書構築を進めている<sup>23)</sup>。また、ニューヨーク州立大学ジェネセオ校 (State University of New York Geneseo) の図書館員は、ILL と受入の業務を一元的に管理できる、既存の ILL システムに付加するツールを開発した<sup>24)</sup>。ILL リクエストがあった資料が新刊であれば、現物貸借ではなく購入して受入部署で処理するのが望ましいであろうし、逆に購入リクエストがあった資料が絶版であれば、購入ではなく現物貸借リクエスト

として ILL 部署に送られることが検討されるであろう。ILL と受入業務は密接に関わっており、協力体制を構築することによって、より利用者の声を反映した蔵書構築を行うことが可能になるとともに、業務の効率化にもつながると思われる。また、こうした利用者の資料要求を直接選書に反映させていくだけではなく、それらを分析し、傾向をとらえ、図書館員自身が行う選書にフィードバックしていくことも重要であろう。蔵書全体を見て蔵書構築をコントロールするのは、図書館員による選書の重要な役割であると考えられる。

#### [参考・引用文献]

- 1) Lugg, Rick. "Collecting for the Moment: Patron-Driven Acquisitions as a Disruptive Technology". *Patron-Driven Acquisitions: History and Best Practices*. Swords, David A. ed. De Gruyter Saur, 2011, p. 7-22.
- 2) Hodges, Dracine. et al. "Patron-Initiated Collection Development: Progress of a Paradigm Shift". *Patron-Driven Acquisitions: Current Successes and Future Directions*. Nixon, Judith M. et al. ed. Routledge, 2011, p. 90-103.
- 3) 小山憲司. 利用者要求にもとづくコレクション構築: 大学図書館における電子書籍を対象とした PDA を中心に. *カレントアウェアネス*. 2012, no.313, CA1777, p. 18-21.  
<http://current.ndl.go.jp/ca1777>, (参照 2012-11-30).
- 4) Ward, Suzanne M. *Books on Demand: Just-in-Time Acquisitions*. *The Acquisitions Librarian*. 2002, vol. 14, no. 27, p. 95-107.
- 5) Anderson, Kristine J. et al. *Buy, Don't Borrow: Bibliographers' Analysis of Academic Library Collection Development Through Interlibrary Loan Requests*. *Collection Management*. 2002, vol. 27, no. 3/4, p. 1-10.

- 6) Ward, Suzanne M. et al. Collection development based on patron requests: collaboration between interlibrary loan and acquisitions. *Library Collections, Acquisitions, & Technical Services*. 2003, vol. 27, no. 2, p. 203-213.
- 7) Anderson, Kristine J. et al. "Liberal Arts Books on Demand: A Decade of Patron-Driven Collection Development, Part 1". *Patron-Driven Acquisitions: Current Successes and Future Directions*. Nixon, Judith M. et al. ed. Routledge, 2011, p. 7-23.
- 8) Bracke, Marianne S. "Science and Technology Books on Demand: A Decade of Patron-Driven Collection Development, Part 2". *Patron-Driven Acquisitions: Current Successes and Future Directions*. Nixon, Judith M. et al. ed. Routledge, 2011, p. 24-32.
- 9) Nixon, Judith M. "A Study of Circulation Statistics of Books on Demand: A Decade of Patron-Driven Collection Development, Part 3". *Patron-Driven Acquisitions: Current Successes and Future Directions*. Nixon, Judith M. et al. ed. Routledge, 2011, p. 33-43.
- 10) Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.  
<http://www.carnegiefoundation.org/>, (accessed 2013-02-23).
- 11) Office of Institutional Research, Purdue University. "Enrollment by Student Level (for Fall Semester in Academic Years 2003-04 through 2012-13)". *Purdue University data digest: 2012-13*.  
<http://www.purdue.edu/datadigest/students/pg8.html>, (accessed 2013-03-04).
- 12) Purdue University Library. "Libraries and Units".  
<http://www.lib.purdue.edu/libraries/>, (accessed 2012-11-30).
- 13) Office of Institutional Research, Purdue University. "Libraries (for Fiscal Years 2002-03 through 2011-12)". *Purdue University data digest: 2012-13*.  
<http://www.purdue.edu/datadigest/additional/pg116.html>, (accessed 2013-02-23).
- 14) アメリカの大学図書館においては、ILLにかかる費用は図書館が負担するのが一般的である。パデュー大学においても、ILLにかかる費用は図書館が負担するとされている。  
伊藤倫子. 特集, 文献複写サービスの過去・現在・未来: 米国大学図書館における ILL 活動の発達と現状. *情報の科学と技術*. 2011, vol. 61, no. 10, p. 401-409.  
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008750529/>, (参照 2013-02-23).
- 15) Purdue University Library. "Interlibrary Loan".  
<http://www.lib.purdue.edu/services/interlibrary-loan>, (accessed 2013-02-23).
- 16) Office of Institutional Research, Purdue University. "Enrollment by College/School and by Student Level (for Fall Semester in Academic Years 2003-04 through 2012-13)". *Purdue University data digest: 2012-13*.  
[http://www.purdue.edu/datadigest/students/pg9\\_10.html](http://www.purdue.edu/datadigest/students/pg9_10.html), (accessed 2013-03-04).
- 17) パデュー大学には図書館学のプログラムはないため、ここに含まれるのは図書館員である。
- 18) たとえば次の論文では、印刷資料の PDA プログラムを扱う文献を発表年順に紹介し、その数は 20 以上となっている。  
Tyler, David C. *Patron-Driven Purchase on Demand Programs for Printed Books and Similar Materials: A Chronological Review and Summary of Findings*. *Library Philosophy and Practice*. 2011(June).  
<http://www.webpages.uidaho.edu/~mbolin/tyler.htm>, (accessed 2013-02-23).

- 19) 仲町麗子. 特集, 利用者による選書: きらめく  
宝石箱をつくる: 武蔵野大学の学生選書. 薬学  
図書館. 2012, vol. 57, no. 2, p. 123-126.
- 20) 関口千登世ほか. 特集, 利用者による選書: 城  
西大学水田記念図書館におけるキノコレを利用し  
た学生選書の取り組み. 薬学図書館. 2012, vol.  
57, no. 2, p. 127-131.  
[http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000002repository\\_JOS-YAKUTO57-2-p127](http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002repository_JOS-YAKUTO57-2-p127), (参照  
2013-02-23)
- 21) 森岡寿昭. 特集, 利用者による選書: 学生選書  
を中心とした読書推進活動の展開: 神戸学院大  
学の場合. 薬学図書館. 2012, vol. 57, no.  
2, p. 132-136.
- 22) 西尾十和子. 特集, 利用者による選書: 学生選  
書会について: 金城学院大学図書館の事例. 薬学  
図書館. 2012, vol. 57, no. 2, p. 140-144.
- 23) Perdue, J. et. al. Borrow or Buy?  
Cost-Effective Delivery of Monographs. *Journal  
of Interlibrary Loan, Document Delivery &  
Information Supply*. 1999, vol. 9, no. 4, p. 19-28.
- 24) Pitcher, K. et. al. "Point-of-Need Collection  
Development: The Getting It System Toolkit  
(GIST) and a New System for Acquisitions and  
Interlibrary Loan Integrated Workflow and  
Collection Development". *Patron-Driven  
Acquisitions: Current Successes and Future  
Directions*. Nixon, Judith M. et al. ed.  
Routledge, 2011, p. 222-236.

(むらにし あすか 名古屋大学附属図書館)